

学 部 要 項

(90年度以前入学者用)

1991

早 稲 田 大 学 人 間 科 学 部

1991（平成3）年度 早稲田大学大学暦

区		分	期		日
入 学 式		学 部	1991（平成3）年 4月1日（月）		
		大学院	4月2日（火）		
前 期	授業開始	学 部	4月2日（火）		十 六 週
		大学院	4月3日（水）		
	授 業 終 了		7月20日（土）		
	夏 季 休 業	自	7月21日（日）		
		至	9月15日（日）		
後 期	授 業 開 始		9月17日（火）		十 七 週
	創 立 記 念 日		10月21日（月）		
	冬 季 休 業	自	12月17日（火）		
		至	1992（平成4）年 1月7日（火）		
	授 業 終 了		2月6日（木）		
	春 季 休 業	自	2月7日（金）		
		至	3月31日（火）		
授 業 期 間			33 週		
学部卒業式，専門学校卒業式および大学院学位授与式			3月25日（水）		

カリキュラム変更点および要項抜粋

カリキュラム変更点

「一般教育科目」

1. 新設科目（91年度から適用）

分 野	学 科 目	配当年次	単位
社会科学系	経 済 学	1	4
社会科学系	文化人類学	1	4

2. 分野変更（91年度から適用）

分 野	学 科 目	配当年次	単位	内 容
人文科学系	日本文化史	1	4	社会科学系へ変更となる

3. 名称変更（91年度から適用）

分 野	旧 名 称	新 名 称
自然科学系	人 類 学	人類学（自然）

科目選択では、人文・社会・自然の各分野より最低1科目以上履修することが規定されており、1・2年次において、合計5科目20単位を履修しなければならない。

ただし、90年度にスポーツ科学科に入学した学生で、教員免許を取得しようとする者は、「法学（憲法を含む）」を必修しなければならない。

なお、すでに日本文化史を履修済の者は、人文科学系の科目として取得したものとする。

分野	学 科 目	配当年次	単位
人 文	教 育 学	1	4
	宗 教 学	1	4
	哲 学	1	4

人 文	倫 理 学	1	4
	文 学	1	4
	比 較 文 明 論	1	4
	映 像 論	1	4
社 会	法学（憲法を含む）	1	4
	社 会 変 動 論	1	4
	ヨーロッパ文化概論	1	4
	教 育 法	1	4
	経 済 学	1	4
	文 化 人 類 学	1	4
	日 本 文 化 史	1	4
自 然	物 理 学	1	4
	化 学	1	4
	生 態 系 科 学	1	4
	基 礎 数 学	1	4
	生 命 科 学 論	1	4
	行 動 学	1	4
	人 類 学（自 然）	1	4

「外国語科目」

1. 随意科目（91年度から適用）

随意科目として、上級英語・上級独語・上級仏語が配当されているので、3年次および4年次において、制限単位外で履修することができる

「専門教育科目」

1. 各学科共通科目（選択）（91年度から適用）

(1) 新設科目

学 科 目	配当年次	単位
画 像 医 学 II	2 ～ 4	2

(2) 廃止科目

学 科 目	配当年次	単位
労働衛生概論	2 ～ 4	2

(3) 名称変更科目

旧 名 称	新 名 称
救 急 処 置 法	救 急 医 学 I
看 護 法	救 急 医 学 II
物 療 医 学	画 像 医 学 I
地 域 体 育 論	コミュニティ・スポーツ論

各学科とも下記の科目のうち、7科目14単位以上を必ず履修すること。

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
哲学的人間学 I	2 ～ 4	2	精 神 衛 生 概 論	2 ～ 4	2
哲学的人間学 II	2 ～ 4	2	精神身体医学 I	2 ～ 4	2
言語・記号論	2 ～ 4	2	(ストレスと生体反応)		
民族文化論	2 ～ 4	2	栄 養 学 I	2 ～ 4	2
認知理論	2 ～ 4	2	スポーツ医学 I	2 ～ 4	2
人格心理学	2 ～ 4	2	スポーツ医学 II	2 ～ 4	2
教育心理学 I	2 ～ 4	2	救 急 医 学 I	2 ～ 4	2
運動心理学	2 ～ 4	2	救 急 医 学 II	2 ～ 4	2
社会心理学	2 ～ 4	2	画 像 医 学 I	2 ～ 4	2
保健社会学	2 ～ 4	2	画 像 医 学 II	2 ～ 4	2
人間工学 I	2 ～ 4	2	運 動 処 方 論	2 ～ 4	2
脳神経科学	2 ～ 4	2	コミュニティ・スポーツ論	2 ～ 4	2
精神医学 I	2 ～ 4	2	職 場 体 育 論	2 ～ 4	2
精神医学 II	2 ～ 4	2			

2. 人間基礎科学科 (91年度から適用)

(1) 名称変更

系 列	旧 名 称	新 名 称
専門選択	行 動 理 論	認知行動理論

(2) 配当年次変更

系 列	学 科 目	旧配当年次	新配当年次	備 考
専門選択	生 物 工 学	3～4	2～4	92年度まで開講し、以降廃止
専門選択	遺伝学及び実習	3～4	2～4	

(92年度以降適用)

(1) 名称変更

系 列	旧 名 称	新 名 称	備 考
専門選択	細胞学及び実習	細胞学・発生学及び実習	92年度から
専門選択	組織学及び実習	神経内分泌学及び実習	92年度から
専門選択	生理学及び実習	生理学・分子生物学及び実習	92年度から

(2) 科目改廃

系 列	旧 学 科 目	新 学 科 目	備 考
専門選択	社 会 集 団 論	社 会 集 団 論 I	I, IIとも半 期で2単位と なる
		社 会 集 団 論 II	
専門選択	人口学（老年学を含む）	人 口 学 I	I, IIとも半 期で2単位と なる
		人 口 学 II	
(注) 社会集団論, 人口学を92年度以降履修する者は, I およびIIを履修すること。			
専門選択	家 族 社 会 学 及 び 実 習	家 族 社 会 学 及 び 実 習 I	I, IIとも半 期科目で3単 位
		家 族 社 会 学 及 び 実 習 II	

専門選択	地 域 社 会 学 及 び 実 習	地域社会学及び実習Ⅰ	Ⅰ，Ⅱとも半 期科目で3単 位
		地域社会学及び実習Ⅱ	
専門選択	都 市 社 会 学 及 び 実 習	都市社会学及び実習Ⅰ	Ⅰ，Ⅱとも半 期科目で3単 位
		都市社会学及び実習Ⅱ	
(注) 92年度以降C系列を残している者は，Ⅰを選択すること。			

(3) 選択要領変更

系 列	学 科 目	変 更 内 容
専門必修	比較形態学	92年度まで開講し，以降廃止となる。 未履修の者は，93年度以降専門選択科目「神経内分泌学及び実習」を履修し，振り替える。
専門必修	自然人類学	92年度より選択科目となる(91年度入学者から適用) 90年度以前の入学者は，92年度以降選択科目として設置されている同科目を履修すること。
専門選択	A，B，C系列	92年度からA，B，C系列が撤廃され(91年度入学者から適用)，別表のとおり生物学系・心理行動学系・社会学系の3学系に分類される。 92年度以降A，B，C系列を残している者は，3学系の実習科目から選んで履修すること。ただし，すでに履修しているものから選択することはできない。 なお，社会学系の実習科目はⅠを選択すること。

人間基礎科学科カリキュラム (92年度)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
(必修)			(選択)		
生物学概論	1	2	〈生物学系〉		
社会学概論	1	2	細胞学・発生学及び実習	2～4	3
比較形態学	2	2	神経内分泌学及び実習	2～4	3
心理学概論	2	2	生理学・分子生物学及び実習	2～4	3
行動学概論	3	2	脳神経科学及び実習	2～4	3
自然人類学	3	2	情報生理学及び実習	2～4	3

社会生命科学	3	2	生態学及び実習	2～4	3
統計学概論	3	2	遺伝学及び実習	2～4	6
演習Ⅰ	2	4	比較行動学	2～4	2
演習Ⅱ	3	4	(91年度入学者からは 自然人類学が入る)		
卒業論文	4	8			
			〈心理行動学系〉		
			行動学研究法及び実習	2～4	3
			心理学研究法及び実習	2～4	3
			心理学的測定法及び実習	2～4	3
			生理心理学	2～4	2
			認知行動理論	2～4	2
			非言語行動論	2～4	2
			認知発達理論	2～4	2
			動機づけ理論	2～4	2
			〈社会学系〉		
			家族社会学及び実習Ⅰ	2～4	3
			家族社会学及び実習Ⅱ	2～4	3
			地域社会学及び実習Ⅰ	2～4	3
			地域社会学及び実習Ⅱ	2～4	3
			都市社会学及び実習Ⅰ	2～4	3
			都市社会学及び実習Ⅱ	2～4	3
			社会学理論史	2～4	2
			社会集団論Ⅰ	2～4	2
			社会集団論Ⅱ	2～4	2
			社会福祉論Ⅰ	2～4	2
			社会福祉論Ⅱ	2～4	2
			社会病理学	2～4	2
			人口学Ⅰ	2～4	2
			人口学Ⅱ	2～4	2
			特論Ⅰ	2～4	2
			特論Ⅱ	2～4	2
			生物工学	2～4	2

※91年度は「行動理論」が「認知行動理論」と名称変更になること。「遺伝学及び実習」および「生物工学」の配当年度が変更になることのみである。

3. 人間健康科学科 (91年度から適用)

(1) 廃止科目

系 列	学 科 目	配当年次	単位
専門選択	行 動 医 学 I	2 ～ 4	2
専門選択	行 動 医 学 II	2 ～ 4	2

(2) 講義実施方法変更

系 列	学 科 目	変 更 内 容
専門必修	演 習 I	20名前後を1つの班とし、8つの班に分かれて行う。(詳細は講義要項を参照のこと)

人間健康科学科カリキュラム

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
(必修)			(選択)		
福祉援助論	2	2	生活構造論 I	1～4	2
地域福祉論	2	2	比較文化論	1～4	2
臨床心理学	2	2	産業・職業社会学	2～4	4
精神身体医学II	2	2	生活構造論 II	2～4	2
運動・保健概論	2	2	社会運動論	2～4	2
人間関係論 I	3	2	社会意識論	2～4	2
人間関係論 II	3	2	社会調査法 I	2～4	2
環境心理学 II	3	2	社会調査法 II	2～4	2
レクリエーション論	3	2	社会開発論	2～4	2
演 習 I	2	4	コミュニケーション論	2～4	2
演 習 II	3	4	余 暇 論	2～4	2
卒業論文	4	8	教育心理学 II	2～4	2
			環境心理学 I	2～4	2
			造形心理学	2～4	2
			組織心理学	2～4	2
			人間行動と環境(医) I	2～4	2
			人間行動と環境(医) II	2～4	2
			心理検査法 I	2～4	2
			心理検査法 II	2～4	2
			行動検査法	2～4	2

			行 動 療 法 I	2～4	2
			行 動 療 法 II	2～4	2
			心 理 療 法 I	2～4	2
			心 理 療 法 II	2～4	2
			学校カウンセリング	2～4	2
			栄 養 学 II	2～4	2
			人 間 工 学 II	2～4	2
			特 論 III	2～4	2
			特 論 IV	2～4	2

4. スポーツ科学科 (91年度から適用)

(1) 新設科目

系 列	学 科 目	配当年次	単位
専門選択	スポーツ方法論・実習 I (器械運動)	1 ～ 4	2
	スポーツ方法論・実習 I (水泳)		
	スポーツ方法論・実習 I (卓球)		
	スポーツ方法論・実習 I (ソフトボール)		
	スポーツ方法論・実習 I (バドミントン)		
	スポーツ方法論・実習 I (硬式テニス)		
	スポーツ方法論・実習 I (軟式テニス)		
	スポーツ方法論・実習 I (スキー)		
	スポーツ方法論・実習 I (スケート)		
	スポーツ方法論・実習 I (レスリング)		
	スポーツ方法論・実習 I (筋力トレーニング)		

(2) 廃止科目

系 列	学 科 目	配当年次	単位
専門選択	スポーツ特論・実習 I (ダンス)	3	2
	スポーツ特論・実習 II (ダンス)	4	2
	原書講読演習 I	1 ～ 4	2

	社会調査・実習	3 ～ 4	2
	公衆衛生学Ⅱ	2 ～ 4	2
(注) 原書講読演習Ⅰの再履修者は、Ⅱで振り替える。			

(3) 名称変更

系 列	旧 名 称	新 名 称
専門必修	バイオメカニクスⅡ	バイオメカニクス
	体力トレーニング理論・実習	体力トレーニング論
専門選択	バイオメカニクスⅠ	運動制御論
	公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生学
	スポーツ方法論・実習(体操)	スポーツ方法論・実習Ⅰ(体操)
	スポーツ方法論・実習(陸上)	スポーツ方法論・実習Ⅰ(陸上)
	スポーツ方法論・実習(ダンス)	スポーツ方法論・実習Ⅰ(ダンス)
	スポーツ方法論・実習 (レクリエーション)	スポーツ方法論・実習Ⅰ (ニュースポーツ)
	スポーツ方法論・実習 (バレーボール)	スポーツ方法論・実習Ⅰ (バレーボール)
	スポーツ方法論・実習 (バスケットボール)	スポーツ方法論・実習Ⅰ (バスケットボール)
	スポーツ方法論・実習 (ラグビー)	スポーツ方法論・実習Ⅰ (ラグビー)
	スポーツ方法論・実習 (サッカー)	スポーツ方法論・実習Ⅰ (サッカー)
	スポーツ方法論・実習(柔道)	スポーツ方法論・実習Ⅰ(柔道)
	スポーツ方法論・実習(剣道)	スポーツ方法論・実習Ⅰ(剣道)
	スポーツ特論・実習Ⅰ (ウェイトトレーニング)	スポーツ特論・実習Ⅰ (ウェイトリフティング)
	スポーツ特論・実習Ⅱ (ウェイトトレーニング)	スポーツ特論・実習Ⅱ (ウェイトリフティング)
	体育測定法・演習	測定評価論 (単位数も2→4に変更)

(4) 時数変更

系 列	学 科 目	旧時数	新時数
専門必修	演 習 I	4	2

(5) 選択要領変更

系 列	学 科 目	変 更 内 容
専門必修	演 習 II	3 年次に演習Ⅱ A (2 単位), 4 年次に演習Ⅱ B (2 単位) を履修する。(3 → 4 年は自動登録) また, 時数も 4 → 2 となる。 演習Ⅱの再履修者は, A・B 両方を登録すること

(92年度以降適用)

(1) 新設科目

系 列	学 科 目	配当年次	単位
専門選択	スポーツ方法論・実習Ⅱ（バスケットボール）	2 ～ 4	1
	スポーツ方法論・実習Ⅱ（バレーボール）		
	スポーツ方法論・実習Ⅱ（サッカー）		
	スポーツ方法論・実習Ⅱ（柔道）		
	スポーツ方法論・実習Ⅱ（剣道）		
	スポーツ方法論・実習Ⅱ（器械運動）		
	スポーツ方法論・実習Ⅱ（陸上）		
(注) スポーツ方法論・実習Ⅱは、スポーツ方法論・実習Ⅰの当該科目を履修した者のみ履修可とする。			
専門選択	原書講読演習	2 ～ 4	2

(2) 廃止科目

専門選択	スポーツ特論・実習Ⅱ（全種目）	4	2
（注）スポーツ特論・実習Ⅱの廃止は，94年度からとなる。			
専門選択	原書講読演習Ⅱ（92年度）	2 ～ 4	2
	スポーツ経営学Ⅱ（93年度）	3 ～ 4	2
	学校保健Ⅱ（93年度）	2 ～ 4	2

(3) 名称変更（93年度から）

系 列	旧 名 称	新 名 称
専門必修	スポーツ経営学Ⅰ	スポーツ経営学
専門選択	学校保健Ⅰ	学校保健
	スポーツ特論・実習Ⅰ（全種目）	スポーツ特論・実習

(4) 選択要領変更（92年度から）

系 列	学 科 目	変 更 内 容
専門選択	運 動 生 理 学	92年度から必修科目となる。(91年度入学者から適用) 90年度以前の入学者は，92年度以降選択科目として設置されている同科目を履修すること。

スポーツ科学科カリキュラム

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
(必修)			(選択)		
スポーツ情報論	2	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(体操)	1～3	2
スポーツ文化論	2	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(陸上)	1～3	2
体力トレーニング論	2	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(ダンス)	1～3	2
スポーツ社会学	3	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(ニュースポーツ)	1～3	2
スポーツ経営学Ⅰ	3	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(バレーボール)	1～3	2
社会調査	3	4	スポーツ方法論・実習Ⅰ(バスケットボール)	1～3	2
スポーツ心理学	3	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(ラグビー)	1～3	2
バイオメカニクス	3	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(サッカー)	1～3	2
演 習 Ⅰ	2	4	スポーツ方法論・実習Ⅰ(柔道)	1～3	2
演 習 Ⅱ A	3	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(剣道)	1～3	2
演 習 Ⅱ B	4	2	スポーツ方法論・実習Ⅰ(器械運動)	1～3	2
卒業論文	4	8	スポーツ方法論・実習Ⅰ(水泳)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(卓球)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(ソフトボール)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(バドミントン)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(硬式テニス)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(軟式テニス)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(スキー)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(スケート)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(レスリング)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(筋力トレーニング)	1～3	2
			スポーツ方法論・実習(球技Ⅰ)	2～3	2
			スポーツ方法論・実習(球技Ⅱ)	2～3	2
			スポーツ方法論・実習(格技)	2～3	2
			スポーツ方法論・実習Ⅱ(陸上)	2～4	1
			スポーツ方法論・実習Ⅱ(バレーボール)	2～4	1
			スポーツ方法論・実習Ⅱ(バスケットボール)	2～4	1
			スポーツ方法論・実習Ⅱ(サッカー)	2～4	1
			スポーツ方法論・実習Ⅱ(柔道)	2～4	1
			スポーツ方法論・実習Ⅱ(剣道)	2～4	1
			スポーツ方法論・実習Ⅱ(器械運動)	2～4	1
			(※Ⅱは92年度から設置)		
			原書講読演習Ⅱ	2～4	2
			社会構造論	2～4	2
			コミュニティ論	2～4	2
			スポーツ法学	2～4	2
			スポーツ行政論	2～4	2
			公衆衛生学	2～4	2
			生理学	2～4	2
			衛生学	2～4	2
			運動生理学	2～4	2
			運動制御論	2～4	2

身体形態学	2～4	2
リハビリテーション	2～4	2
精神生理学及び実習	2～4	2
音楽理論・実習	2～4	2
学校保健 I	2～4	2
学校保健 II (93年度廃止)	2～4	2
スポーツ工学 I	2～4	2
スポーツ工学 II	2～4	2
スポーツ史	2～4	2
比較スポーツ論	2～4	2
コーチング論	2～4	2
測定評価論	2～4	2
武道概論	2～4	2
ダンス概論	2～4	2
スポーツ経営学 II (93年度廃止)	3～4	2
スポーツ特論 I (水泳)	3	2
スポーツ特論 II (水泳)	4	2
スポーツ特論 I (ウェイトリフティング)	3	2
スポーツ特論 II (ウェイトリフティング)	4	2
スポーツ特論 I (体操競技)	3	2
スポーツ特論 II (体操競技)	4	2
スポーツ特論 I (陸上競技)	3	2
スポーツ特論 II (陸上競技)	4	2
スポーツ特論 I (柔道)	3	2
スポーツ特論 II (柔道)	4	2
スポーツ特論 I (剣道)	3	2
スポーツ特論 II (剣道)	4	2
スポーツ特論 I (レスリング)	3	2
スポーツ特論 II (レスリング)	4	2
スポーツ特論 I (ボクシング)	3	2
スポーツ特論 II (ボクシング)	4	2
スポーツ特論 I (野球)	3	2
スポーツ特論 II (野球)	4	2
スポーツ特論 I (ソフトボール)	3	2
スポーツ特論 II (ソフトボール)	4	2
スポーツ特論 I (硬式テニス)	3	2
スポーツ特論 II (硬式テニス)	4	2
スポーツ特論 I (軟式テニス)	3	2
スポーツ特論 II (軟式テニス)	4	2
スポーツ特論 I (卓球)	3	2
スポーツ特論 II (卓球)	4	2
スポーツ特論 I (バドミントン)	3	2
スポーツ特論 II (バドミントン)	4	2
スポーツ特論 I (バレーボール)	3	2
スポーツ特論 II (バレーボール)	4	2
スポーツ特論 I (バスケットボール)	3	2
スポーツ特論 II (バスケットボール)	4	2

		スポーツ特論Ⅰ(ラグビー)	3	2
		スポーツ特論Ⅱ(ラグビー)	4	2
		スポーツ特論Ⅰ(サッカー)	3	2
		スポーツ特論Ⅱ(サッカー)	4	2
		スポーツ特論Ⅰ(スキー)	3	2
		スポーツ特論Ⅱ(スキー)	4	2
		スポーツ特論Ⅰ(スケート)	3	2
		スポーツ特論Ⅱ(スケート)	4	2
		(※Ⅱは94年度廃止)		

※ 「スポーツ特論・実習Ⅰ」は、本学科の教員が専門とするスポーツ種目を取り上げて、その競技力の向上のための方策を理論と実技の両面から多角的に学習できるようにした科目である。履修する学生は、きわめて高度な技能を持っていることが要求されるので、それらの種目に対応する体育各部の部員を対象とする。

「スポーツ特論・実習Ⅱ」は、「スポーツ特論・実習Ⅰ」に続く科目であるので、同種目の「スポーツ特論・実習Ⅰ」を履修していることが条件となる。

科目選択の一般的注意事項

〈履修科目の登録〉

履修する科目の選択は、1年間の学習活動を決定づけるばかりでなく、将来の進路にも係わる重要なことがらである。科目選択に際しては各自が将来の進路をも考え、単位履修基準表(学部要項参照)に従って卒業までのおおよその履修計画を立て、段階的に履修を進めていくようにすべきである。届け出に際しては下記の注意事項ならびに別冊の「授業時間割」および「議義要項」をよく読み、不明な点や疑問があれば事務所で確かめ、誤りのないよう十分に注意すること。

5月上旬(詳細は後日掲示)学部事務所において各自の登録した科目に間違いがないかどうか確認する期間があるので必ず確認しておくこと。

1. 科目登録の種類

人間科学部設置科目の登録には、自動登録・抽選登録・一般登録の3種がある。また、希望する者は他学部設置科目の登録も可能である。

各登録については、「科目登録上の注意」（別冊）をよく読み、誤りのないよう登録すること。

2. 自動登録に関する注意

各自に指定されたクラスや、所属する学科により履修科目が自動的に決定されることを自動登録という。各学年で自動登録された科目が未修得科目（不可等）となった場合、次年度は科目登録用紙（マークシート）によって、再履修登録をしなければならない。ただし、教養演習および外国語科目については再履修科目登録要領「科目登録上の注意」（別冊）により受付を行うのでマークシートでの登録は必要ない。

教員免許状などに必要なため他学部 of 科目を履修しなければならない場合は、決められた日時に学部事務所に申し出なければ登録されない。

〔自動登録科目〕

教養演習 外国語 A 外国語 B 基礎教育科目

3. 抽選登録

履修を希望する科目は、指定された期日に必ず届け出ること。一部の科目については、提出者について抽選を行い、定員の限度以内で受講を許可する。

4. 一般（選択）科目登録

自動登録、抽選科目以外で各自の希望する科目を指定された期日に必ず届け出ること。

5. 他学部設置科目の登録

聴講を希望する学部の日程に従って登録すること。聴講を許可された場合は、速やかに学部事務所にその旨届け出ること。

(1) 他学部で聴講できる科目は、専門教育科目のみである。一般教育科目・外国語科目を聴講することはできない。また、設置学部の場合で聴講希望科目の登録ができない場合があるので、あらかじめ設置学部で確認すること。

(2) 登録制限・認定範囲

他学部聴講科目は、各年次の制限単位以内で履修しなければならない。

他学部設置科目について、2科目8単位の範囲内で本学部の専門教育科目（原則として各学科共通の専門選択科目）の単位として認める。

(3) 認定外科目

、つぎに示す科目およびこれらに準ずる科目は、卒業に必要な単位としては認めない。また、登録制限単位には算入されない。

- ①教職に関する専門教育科目（教職課程設置の教育原理、教育心理学、道徳教育研究、教科教育法、教育実習など）
- ②図書館司書資格を取得するのに必要な科目（図書館学、参考業務、資料目録法、資料分類法など）
- ③博物館学芸員資格を取得するのに必要な科目（博物館学、視聴覚教育、博物館実習など）
- ④語研設置科目（「一般コース」全科目、「会話コース」全科目、「特設コース」の初級など）

6. 登録違反

下記に示す違反がある科目については、すべて登録を無効とするので十分注意すること。

(1) 重複時間

同一時間帯に2科目以上を履修することは認めない。自動登録科目で時間の重複がある場合は、学部事務所に申し出て指示を受けること。

(2) 重複履修

同一科目が2つ以上のクラスに分かれている場合は、そのうちの1クラスのみを履修すること。

一度合格した科目を再び履修することはできない。科目名称が変更になった場合や授業内容・担任者が以前と異なる場合でも同様である。

(3) 配当年次

すべての科目に配当年次が決められている。各自の学年およびそれ以下の学年に配当されている科目以外は、履修することができない。

(4) 登録単位超過

登録単位数は、次の制限単位数以内とし、登録単位超過については、その年度に科目登録した全科目が無効となる。

		1 年	2 年	3 年	4 年以上
制限単位	人間基礎科学科	47	44	39	44
	人間健康科学科		47	38	
	スポーツ科学科		45	40	

(注意) ① 1 年の制限単位には、保健体育科目の 3 単位を含む。

② 2 年の制限単位には、保健体育科目の 1 単位を含む。

③ 4 年度生以上で卒業見込みの者は、最高履修単位数(44単位)の範囲内で、専門教育科目(学科選択または各学科共通選択)の中から、6 単位増加履修することができる。ただし、増加履修分を加えた和が44単位を超える場合は、44単位とする。

6 単位の増加履修を認める主旨は、4 年度において履修単位に余裕のある者に対して、さらに科目履修の機会を与えることによって一層の学習効果を上げるとともに、卒業年度における安全性を確保することにある。

7. 復学者等の科目登録方法

(1) 復学者

①卒業に必要な所定単位数およびその内訳は、入学した年度の規定による。

したがって、入学した年度の単位履修基準表により必要な科目および単位を履修すること。

②復学者の学年は、入学した年度から起算した学年とする。

③また、科目履修上の学年は、前項の学年から休学期間を差し引いた学年とし、制限単位数もこの学年の単位数を超えてはならない。以後は、この年度を基準として卒業する年次の基準単位数とする。

〔休学者の前期履修取得単位の取り扱いについて〕

年度の後期から休学したとき、その年度の前期に履修し単位を取得した学科目がある場合には、復学時に、その学科目の単位を復学した年度に取得したものとして認める。この場合の単位数は、復学した年度の履修制限単位数の中に含めるものとする。

(2) 学年延長者

所定年限以上在学する者は、不明な点や疑問があれば事務所で確かめ、誤りのないよう注意して登録すること。

(3) その他

下記の者は、入学の際に事務所へ申し出て指示を受けること。

①再入学者

②外国学生の日本語履修者

各種試験および成績

1. 本学部では、毎年、以下の区分により試験を行う。

(1) 前期試験

一般教育科目、外国語科目およびその他必要と認められる科目について、原則として前期末にこの試験を行う。

(2) 学年末試験

原則として全科目について、後期末にこの試験を行う。

※この外、必要に応じて授業時間中に試験を行うことがある。

(3) 未済試験

病気その他やむをえない理由で、前期および学年末の定期試験を受験できなかった者に対し、未済試験を行う。教場試験の学科目でも担当教員の判断で、未済試験を行うことがある。

未済試験を受験する者は、受験しなかった科目の試験終了後、指定された期日に医師の診断書または欠席した事実を証明できる書類を添付し、所定の用紙を用いて試験欠席届および未済試験受験願を提出すること。

(4) 再試験

再試験は、次のいずれかに該当する者のみ受験することができる。

① 3年次の終了した時点で、人間基礎科学科は110単位、人間健康科学科およびスポーツ科学科は112単位の取得がない者。ただし、8単位に限りこれを認める。(①については、87年度入学者から89年度入学者まで適用する。)

② 卒業予定者で、卒業論文に合格し、8単位以内の受験により卒業見込みとなる者。

ただし、GおよびHと判定された科目(89年度以前の入学者はG)と判定された科目については再試験を受験することはできない。

なお、再試験で受験できる科目は当該年度登録科目とし、卒業資格を得るために必要な最低の単位数を限度とする。(演習および実験・実習を伴う科目は再試験を行わない)

再試験を受験する者は、指定された期日に所定の用紙を用いて再試験受験願を提出すること。

※未済・再試験は受験料を別途徴収する。

2. 成績

(1) 成績の判定

成績は試験および出席状況等により総合的に判定する。

出席不良の者(個々の科目につき出席が総授業時間数の2/3に満たない者)は、試験の成績の如何にかかわらず原則として不合格とする。

(2) 成績の表示および発表

成績は、A・B・C・D・F・G・Hをもって表示し、A～Dを合格、F・G・Hを不合格とする。(Hは試験欠席等で評価できないもの)

成績の表示は、次のようになる。

点 数	100～90	89～80	79～70	69～60	59以下		評価外
成 績 証 明 書	優		良	可	記載なし（不可）		
成 績 通 知 書	A	B	C	D	F	G	H
再試験受験資格	※89年度以前の入学者はHも有				有	無	無

成績はA～Hを成績表に記載し、指定の期日に発表する。A～H表示方法、優～不可表示方法と点数との関係は表のとおりである。

(3) 成績通知

成績は成績通知書によって本人に知らせる。既に取得した単位を成績通知書によって確認したうえで、次年度の履修科目を決めること。

なお、成績通知書は各自保管しておくこと。

不合格科目について

（前年度に選択した科目の中に不合格科目があった者に対する注意）

不合格となった科目をふたたび履修する場合は、出席・学習作業等すべて初めて履修する場合とまったく同じ条件のもとで届け出て学習しなければならない。また、前年度に不合格科目があったことを理由に、1年間に制限単位数を超える単位を履修することは認められない。

1. 一般教育科目および基礎教育科目の場合

一般教育科目の場合は、同一科目を再び選択履修してもよいし、あるいは改めて他の科目を選択履修してもよい。ただし、必修に指定された科目が不合格の場合は、次年度に必ず履修すること。また、基礎教育科目については、次年度に必ず履修すること。

2. 外国語科目の場合

前年度に不合格であった場合は、原則として、前年度に指定された組の中から選択し、低年度のものから順に履修すること。

外国語科目は、第1年度が履修済みでなければ、第2年度は選択できない。

い。

ただし、いずれか（外国語科目のイまたはロ）が合格している者は並行履修が認められる。

なお、この場合、時間割上不都合がでてきた場合は、学部事務所で相談のうえ、各自の責任において調整すること。ただし、第4年度生以上の者で翌年3月に卒業見込の者に限り、全部履修することができる。

3. 専門必修科目の場合

専門必修科目が不合格であった場合は、次年度に必ずその科目を履修すること。この場合、不合格単位数が4単位までの場合は、次年度の専門必修科目と同時に履修することを認める。しかし、不合格単位数が4単位を超えた場合は、超過分に相当する単位数だけ、次年度の専門必修科目を履修できない。

ただし、4年度生以上はこの限りではない。

4. 専門選択科目の場合および教職課程科目の場合

一般教育科目の場合に同じ。

5. 保健体育科目の場合

すべて学部事務所および体育局の指示による。

9 月卒業について

単位未取得のため、修業年限（4年）内に卒業することができなかった者は、次の各項により卒業条件が満たされる場合、次年度の前期終了後、9月（9月15日付）に卒業することが認められる。ただし、未取得単位が16単位を超える場合、9月卒業は認められない。

- (1) 前年度に履修した学科科目の内、不合格または受験しなかった科目を、次年度前期に引き続き履修し、所定の試験に合格したとき。
- (2) 前期で講義の終了する科目について、新たに履修し、所定の試験に合格したとき。

- (3) 卒業論文が未提出または不合格となった者で、次年度前期に論文を提出し、合格したとき。

なお、9月卒業を希望する者は、当該年度の初め、科目登録前の指定された日に学部事務所まで申し出ること。

在学の年限

本学部においては、休学・留学期間を除き、入学後4年経過しても1年次における基準単位〈卒業必要単位数の4分の1〉を取得できない場合は、学則第47条2号により退学となる。

また、学則第5条により、在学年数は、8年を超えることができない。

教科に関する専門教育科目履修方法（スポーツ科学科）

〈平成元年度入学者まで〉

免許法施行規則第三条、第四条に規定された科目		最低単位	左記に該当する当学部設置科目	単位	配当種別	履修方法
体 育 実 技		4	〔スポーツ方法論・実習〕 スポーツ方法論・実習Ⅰ(器械運動) 〔体操〕	2	専門選択科目	4科目以上選択履修
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(陸上)	2		
			スポーツ方法論・実習(球技Ⅰ)*	2		
			スポーツ方法論・実習(球技Ⅱ)*	2		
			スポーツ方法論・実習(格技)*	2		
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(ダンス)	2		
			スポーツ方法論・実習Ⅰ(ニュースポーツ) 〔レクリエーション〕	2		
「体育原理， 体育管理」		4	スポーツ経営学Ⅰ スポーツ経営学Ⅱ	2 2	専門必修科目 専門選択科目	2科目必修
中学	生理学（運動生理学を含む）	2	生理学	2	専門選択科目	3科目必修
高校	生理学（運動生理学，病理学及び解剖学含む）	4	運動生理学	2		
			身体形態学（解剖学を含む）	2		
中学	衛生学及び公衆衛生学	2	○衛生学 ○公衆衛生学〔公衆衛生学Ⅰ〕	2 2	専門選択科目	○印4科目必修
中学	学校保健（疾病の予防及び看護法を含む）	4	○学校保健Ⅰ	2		
			○学校保健Ⅱ	2		
高校	「学校保健， 衛生学」	4	【公衆衛生学Ⅱ】			
免にえる許よる専法り教門施大科科行学に目規の関則加す	専門必修科目	14	人間発達のスポーツ科学，スポーツ文化論，スポーツ心理学，スポーツ社会学，体力トレーニング論（理論・実習），スポーツ情報論，バイオメカニクスⅡ〕			
	専門選択科目	（注）	スポーツ法学，スポーツ行政論，コーチング論，測定評価論（体育測定法・演習），武道概論，音楽理論・実習，運動心理学，運動制御論〔バイオメカニクスⅠ〕，スポーツ工学Ⅰ，スポーツ工学Ⅱ，リハビリテーション，運動処方論，コミュニティ・スポーツ論〔地域体育論〕，職場体育論，スポーツ医学Ⅰ，スポーツ医学Ⅱ，救急医学Ⅰ〔救急処置法〕，ダンス概論 【労働衛生概論】			
備 考		上記必修科目を含めると，大学における教科に関する専門科目の最低修得単位数の32単位を満たす。 （注）の科目を履修すると，その単位数が修得単位数に加算される。 〔 〕：旧科目名称				

＊：球技Ⅰは(バレーボール，バスケットボール)，球技Ⅱは(サッカー，ラグビー)，格技は(柔道，剣道)のいずれかを選択

教科に関する専門教育科目履修方法（スポーツ科学科）

〈平成2年度入学者〉

免許法施行規則第三条、第四条に規定された科目	最低単位	左記に該当する当学部設置科目	単位	配当種別	履修方法				
体 育 実 技	5	〔スポーツ方法論・実習〕 スポーツ方法論・実習Ⅰ(器械運動)(体操)	2	専門選択科目	5科目以上選択履修 (注) (5)				
		スポーツ方法論・実習Ⅰ(陸上)	2						
		スポーツ方法論・実習Ⅰ(バレーボール)	2						
		スポーツ方法論・実習(バスケットボール)	2						
		スポーツ方法論・実習Ⅰ(ラグビー)	2						
		スポーツ方法論・実習Ⅰ(サッカー)	2						
		スポーツ方法論・実習(柔道)	2						
		スポーツ方法論・実習(剣道)	2						
		スポーツ方法論・実習Ⅰ(ダンス)	2						
		スポーツ方法論・実習Ⅰ(ニュースポーツ)	2						
		〔レクリエーション〕	2						
		「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学」及び運動学（運動方法学を含む）	6			○スポーツ心理学	2	専門必修科目 専門選択科目 共通選択科目	○印科目必修 (8)
						○スポーツ経営学Ⅰ	2		
○スポーツ社会学	2								
○バイオメカニクス 〔バイオメカニクスⅡ〕	2								
※スポーツ経営学Ⅱ	2								
※スポーツ法学	2								
※スポーツ行政論	2								
※運動制御論 〔バイオメカニクスⅠ〕	2								
※運動心理学	2								
※コミュニティ・スポーツ論〔地域体育論〕	2								
※職場体育論	2								
生理学（運動生理学を含む）	2			○生理学	2	専門選択科目	○印科目必修 (4)		
				○運動生理学	2				
衛生学及び公衆衛生学	2	○衛生学	2	専門選択科目	○印科目必修 (2)				
		※公衆衛生学〔公衆衛生学Ⅰ〕 〔公衆衛生学Ⅱ〕 【労働衛生学概論】	2						
学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む）	5	○学校保健Ⅰ	2	専門選択科目 共通選択科目 専門選択科目 共通選択科目	○印科目必修 (6)				
		○精神衛生概論	2						
		○救急医学Ⅰ〔救急処置法〕	2						
		※リハビリテーション	2						
		※スポーツ医学Ⅰ	2						
		※スポーツ医学Ⅱ	2						
免則のに科目許に加開目法よえす施りるる行大教専規学科門	専門必修科目	8	人間発達のスポート科学，スポート文化論，体力トレーニング論（理論・実習），スポート情報論 (8)						
			専門選択科目	コーチング論，測定評価論〔体育測定法・演習〕，武道概論，音楽理論・実習，スポート工学Ⅰ，スポート工学Ⅱ，ダンス概論，運動処方論，比較スポート論，栄養学Ⅰ，身体形態学（解剖学を含む），スポート史					
備 考	※科目は，履修の最低修得単位数に加算される科目，必修科目(33単位)と，※科目及び専門教育科目(選択)のうちから7単位以上を履修すれば，最低修得単位数40単位を満たす。 (注)スポーツ方法論・実習の2単位は，講義1単位，実技1単位となり，体育実技としては1単位となるので，5科目以上を履修しなければならない。 〔 〕：旧科目名称								

※一般教育科目の履修に際しては，社会科学系「法学（憲法を含む）」を必修すること。

